

第34期 中間報告書

平成25年4月1日 ▶ 平成25年9月30日

証券コード: 7575

...for patient comfort.

主要連結財務データ

Financial Highlights

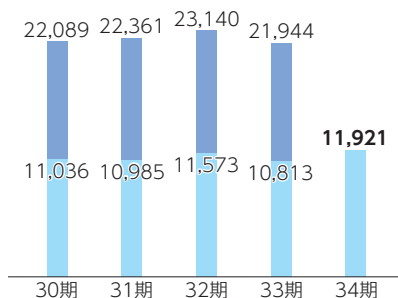
当上半期のポイント

- 売上高は新商品の寄与により前年同期比10.3%増加
- 売上総利益率は自社製品の伸長により1.4ポイント改善
- 営業利益は販売費及び一般管理費が計画を下回り前年同期比205.4%増加

■ 第2四半期累計 ■ 通期

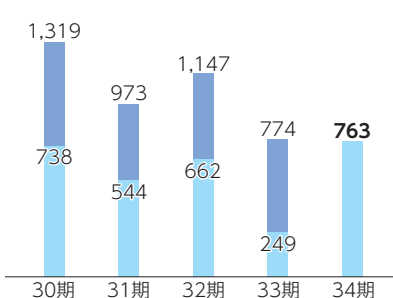
売上高

(単位:百万円)



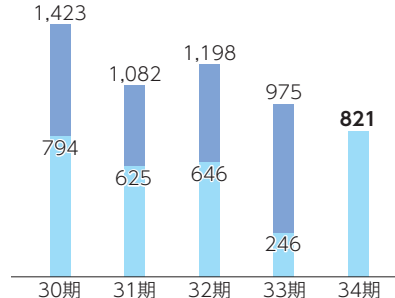
営業利益

(単位:百万円)



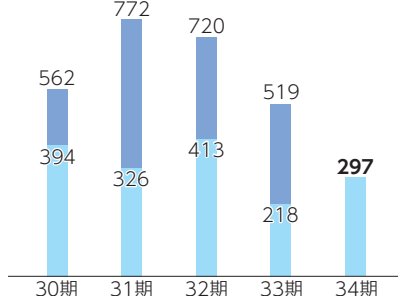
経常利益

(単位:百万円)



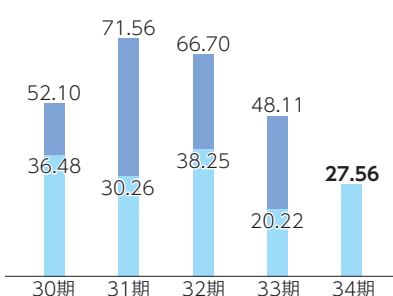
四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益

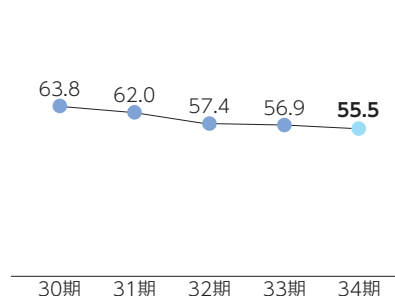
(単位:円)



自己資本比率

(単位:%)

● 第2四半期累計 ● 通期





ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当上半期におきましては、昨年より相次いで導入した新商品が好調に販売数量を伸ばしていることから、前年同期を上回る業績となりました。今後も引き続き新商品の普及浸透に努め、さらなる成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

Q

上半期の業績はいかがでしたか？

A 当上半期におきましては、昨年10月に本格販売を開始した自社製品の心腔内除細動システムが順調に販売数量を伸ばしているほか、外科関連におきましても、生体弁および胸部用ステントグラフトといった成長分野において導入した新商品が業績に寄与いたしました。その一方でリズムデバイスにおきましては、厳しい市場環境のなかで売上高が減少いたしました。

利益面では、収益性の高い自社製品の伸長により売上総利益率が改善いたしました。また販売費及び一般管理費におきましては、広告宣伝費等の経費予算の執行が計画に対し遅れていることに加え、一部の商品の導入計画を見直したことにより薬事関連費用が減少いたしました。

Q

各品目の販売状況について教えてください。

A リズムデバイスにおきましては、他社が取り扱うMRI(磁気共鳴画像)検査への対応が可能な心臓ペースメーカーの影響により、心臓ペースメーカー関連の売上高が減少いたしました。当社といたしましても同様の機能を有する商品の導入準備を進めておりますものの、上市にはまだ時間がかかる見通しです。

またICD(植込み型除細動器)関連におきましては、きめ細かなフォローアップや、検査の効率化が期待される遠隔モニタリングに対応した商品の導入を開始しております。

自社製品を扱うEP/アブレーションにおきましては、既存製品が好調なほか、オンリーワン製品である心腔内除細動システムが販売数量を伸ばし、業績を牽引いたしました。

また当第2四半期より本格的な販売を開始した高周波心房中隔穿刺システムにつきましては、国内初導入の医療機器であり、従来の方法に比べ安全性と確実性に優れていることから、高い評価を得ております。なお心腔内除細動システムおよび高周波心房中隔穿刺システムが用いられる心房細動のアブレーション治療は、今後も症例数の増加が予想されており、両商品による業績への寄与はさらに高まるものと見ております。

外科関連では、生体弁「Mitroflow(マイトロフロー)」および本年5月に発売した胸部用ステントグラフト「RELAY Plus(リレイ・プラス)」が販売数量を伸ばしております。

インターベンションにおきましては、下肢を対象とするガイドワイヤーの新製品「Paddler(パドラー)」、「GLAIVE(グレイブ)」を発売したことにより、末梢用製品の販売数量が増加いたしました。

Q 好調な胸部用ステントグラフトについて教えてください。

A ステントグラフトを用いた胸部大動脈瘤の治療は、従来の開胸手術により人工血管に置き換える治療に比べ低侵襲な治療方法であることから既に欧米では広く普及しております。国内では2008年より保険適用となり、2013年には年30%近い市場規模の拡大が見込まれています。



当社が扱う胸部用ステントグラフト「RELAY Plus」は、屈曲した胸部大動脈への追従性が高く、ステントグラフトを的確に治療箇所へ留置することが可能であることから、高い評価を得ております。今後当社商品の使用施設の拡大を図ることで、さらなる販売数量の増加を目指してまいります。

さらに来年度には子会社製品で、国内初となるオープンステントグラフトの導入も予定しており、商品ラインナップ拡充により、大動脈瘤治療領域における当社の存在感はより一層増すものと考えております。

Q

通期の見通しはいかがでしょうか？

A 下半期におきましては、リズムデバイスの競争環境が厳しくなることが予想されるものの、新商品については引き続き好調な販売が見込まれることから、売上高は前期に比べ12.6%の増加となる見通しです。

販売費及び一般管理費におきましては、上半期に未執行であった広告宣伝費等の経費予算の支出のほか、新たに新商品導入に係る薬事関連費用の発生を見込んでおります。

以上により通期見通しといたしましては、営業利益および経常利益が前期に比べ増加する見通しです。また当期純利益につきましては、前期に計上した特別利益の発生を当期は予定していないことから減益を見込んでおります。

■ 2014年3月期通期業績予想(2013年10月28日付)

売上高	24,705百万円(前期比12.6%)	▲
営業利益	1,192百万円(前期比53.9%)	▲
経常利益	1,239百万円(前期比27.1%)	▲
当期純利益	489百万円(前期比△5.8%)	▲

Topics

遠隔モニタリングシステム 「SMARTVIEW」運用開始

ソーリン・グループ製のICDおよびCRT-Dに対応した遠隔モニタリングシステム「SMARTVIEW(スマートビュー)」の運用をこの秋より開始いたしました。

遠隔モニタリングシステムにより、患者様のご自宅に設置された送信機から、電話回線を通じてデバイスの情報を自動で送信することが可能となります。

医師は厳重なセキュリティにより守られたウェブサイトを使用しデバイスの情報を確認することにより、タイムリーに患者様の状態を把握し、早期の治療に生かすことが可能となります。さらに定期的な通院検査に先立ち、患者様の状態を事前に把握できるため、検査の効率化が期待されます。

「SMARTVIEW」モニタリングシステムにより、患者様のさらなる安心感の向上と、検査等に係る患者様および医療施設の負担軽減に努めてまいります。



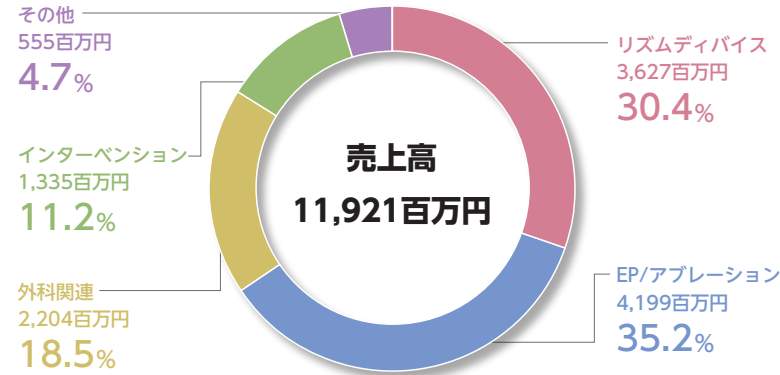
※対応機種(2013年10月現在)

ICD : [PARADYM RF VR]、[PARADYM RF DR]
CRT-D : [PARADYM RF CRT-D]

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比
30.4%

主要取扱品目

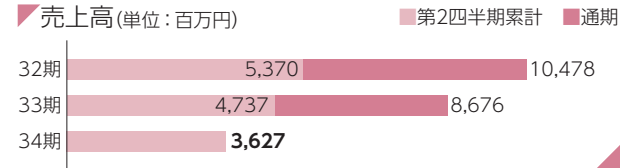
- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカ関連におきましては、競合会社が販売しているMRI検査に対応可能な製品の影響から、前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。ICD関連におきましては、市場は拡大傾向にあるものの、厳しい競争環境のなかで前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は36億2千7百万円(前年同期比23.4%減)となりました。



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比
35.2%

主要取扱品目

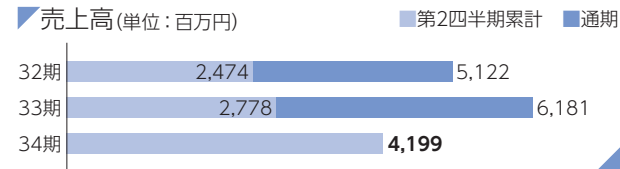
- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル



心腔内除細動カテーテル

EPカテーテルにおきましては、オンリーワン製品である心腔内除細動システム[SHOCK AT]の専用カテーテル[BeeAT]の販売数量が引き続き伸長したことにより、売上高は前年同期に比べ66.1%増加いたしました。アブレーションカテーテルにつきましては、概ね前年同期の販売数量を維持いたしました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は41億9千9百万円(前年同期比51.1%増)となりました。



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

売上高構成比
18.5%

主要取扱品目

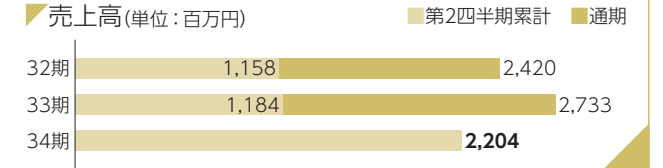
- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工肺
- ステントグラフト
- 人工弁輪



生体弁

人工弁関連におきましては、本年1月に発売した生体弁[Mitroflow]が販売数量を伸ばしたことにより、売上高は前年同期に比べ155.3%増加いたしました。人工血管関連におきましては、本年5月に導入した胸部用ステントグラフト[RELAY Plus]が順調に販売数量を伸ばしております。

以上により、外科関連の売上高は22億4百万円(前年同期比86.2%増)となりました。



インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比
11.2%

主要取扱品目

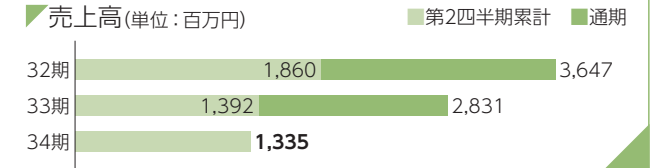
- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー



ガイドワイヤー(イメージ図)

バルーンカテーテルにおきましては、[LIFESPEAR]の拡販に努めたものの、販売数量は前年同期に比べ減少いたしました。自社製品であるガイドワイヤーにおきましては、前年同期に比べ、末梢用製品の販売数量は増加いたしました。冠動脈用製品の販売数量は減少いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は13億3千5百万円(前年同期比4.1%減)となりました。



その他

連結子会社で販売する
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比
4.7%

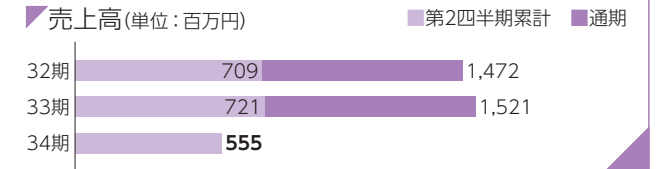
主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社において販売している血液浄化装置等の販売数量が減少したことから、その他の売上高は5億5千5百万円(前年同期比22.9%減)となりました。

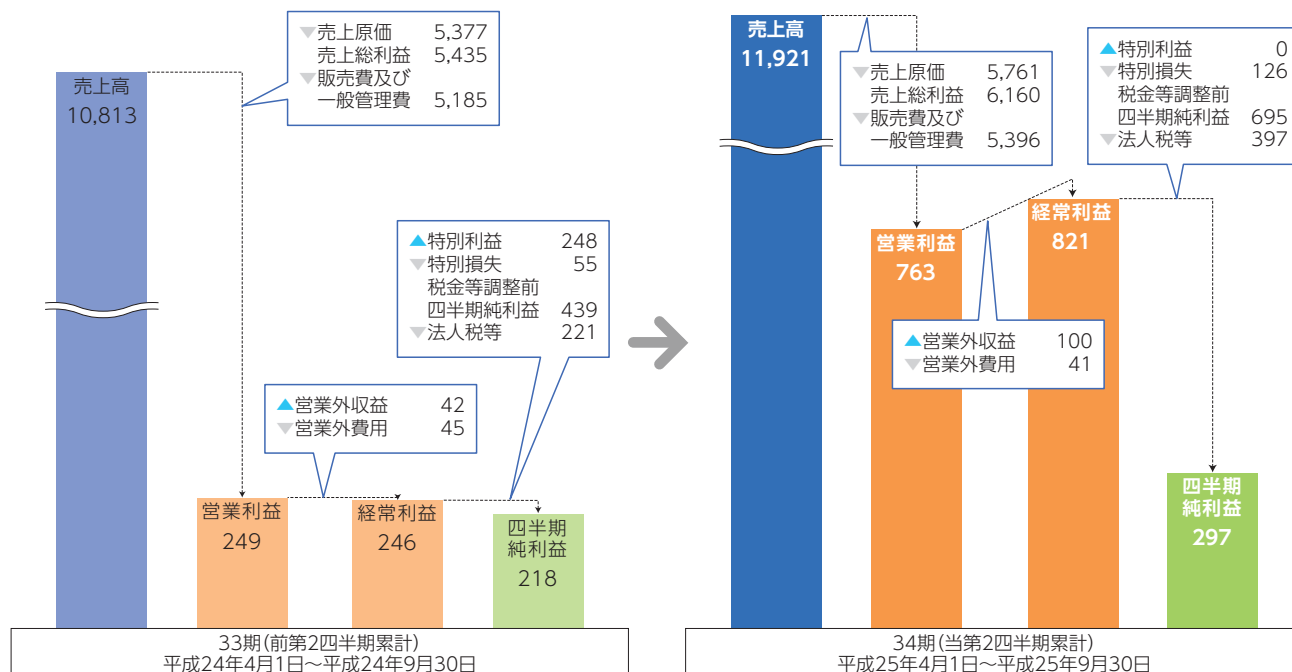


連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



決算のポイント

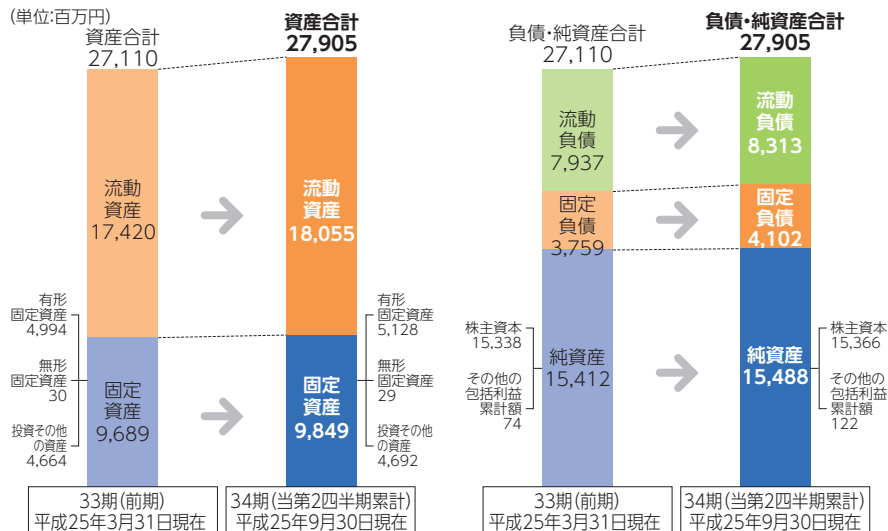
営業利益

新商品を中心に販売が計画を上回る実績となりました。さらに、収益性の高い自社製品の売上構成比の増加により、売上総利益率が前年同期に比べ1.4ポイント改善いたしました。また販売費及び一般管理費におきましては、広告宣伝費等の予算執行が計画に対し遅れているほか、新商品の導入計画の一部見直しに伴う費用の減少により、当初計画を下回る結果となりました。以上により、営業利益は7億6千3百万円(前年同期比205.4%増)となりました。

四半期純利益

投資有価証券評価損および子会社工場の移転に伴う固定資産除却損等を特別損失として1億2千6百万円計上したことから、四半期純利益は2億9千7百万円(前年同期比36.3%増)となりました。

■ 四半期連結貸借対照表の概要



決算のポイント

流動資産

現金及び預金が9億1千6百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が4億7千9百万円、たな卸資産が9億1千2百万円増加したこと等により、流動資産は前連結会計年度に比べ6億3千5百万円増加いたしました。

流動負債

未払法人税等が2億3千1百万円増加したこと等により、流動負債は前連結会計年度に比べ3億7千6百万円増加いたしました。

固定負債

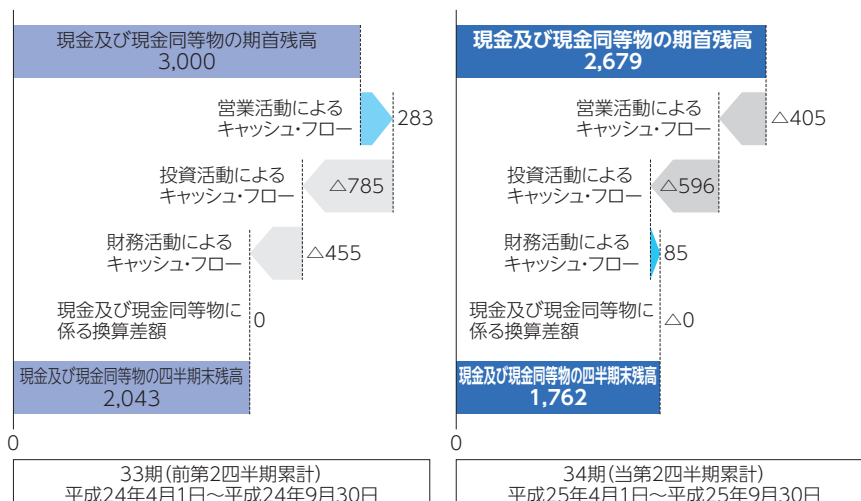
長期借入金が3億2千5百万円増加したこと等により、固定負債は前連結会計年度に比べ3億4千3百万円増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益を6億9千5百万円計上した一方で、売上債権の増加による支出が4億7千9百万円、たな卸資産の増加による支出が9億1千2百万円となったこと等により、4億5百万円の支出(前年同期は2億8千3百万円の収入)となりました。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



会社概況

Corporate Data

■ 会社概要

(平成25年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結606名 単体526名
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社

■ 役員

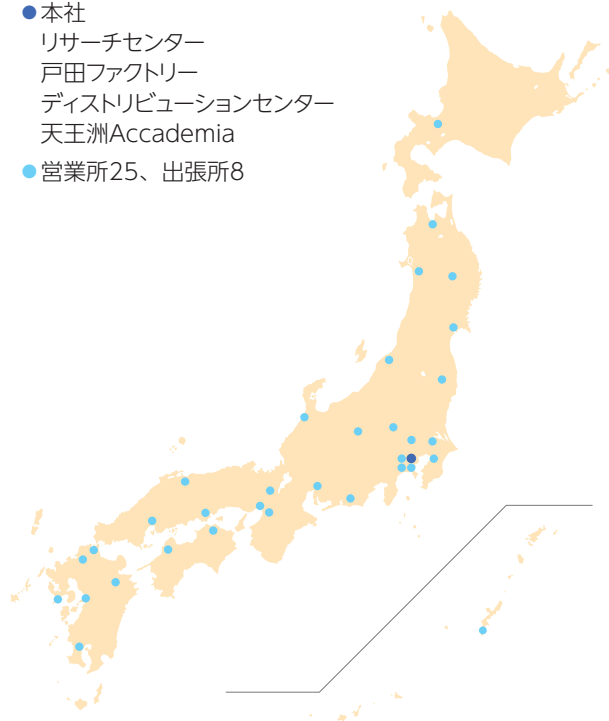
(平成25年9月30日現在)

代表取締役会長	増本 武司	常勤監査役	上田 勝啓
代表取締役社長	鈴木 啓介	監査役	苅米 裕
取締役副社長	鈴木 厚宏	監査役	中村 勝彦
専務取締役	政次 浩二		
常務取締役	高橋 省悟		
取締役	長濱 岳司		
取締役	黒沼 孝之		
取締役	佐々木文裕		

■ 事務所

(平成25年9月30日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
ディストリビューションセンター
天王洲Accademia
- 営業所25、出張所8



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。



投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



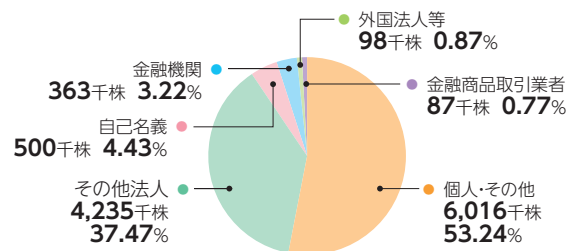
株式の状況 (平成25年9月30日現在)

発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,451名
大株主	

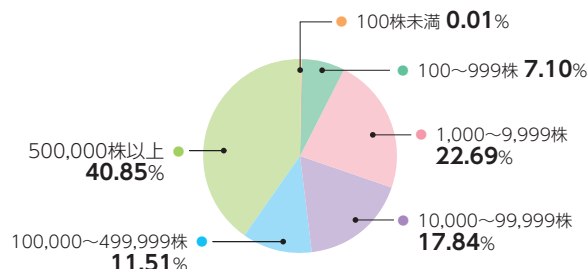
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,020	27.96
KS商事株式会社	1,096	10.15
鈴木啓介	331	3.07
増本武司	307	2.85
日本ライフライン従業員持株会	187	1.73
上田勝啓	134	1.24
加藤力蔵	124	1.16
長濱岳司	116	1.07
株式会社千葉銀行	100	0.93
日本生命保険相互会社	95	0.89

(注) 1. 上位10名に記載していない500,541株を、自己株式として保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式(500,541株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

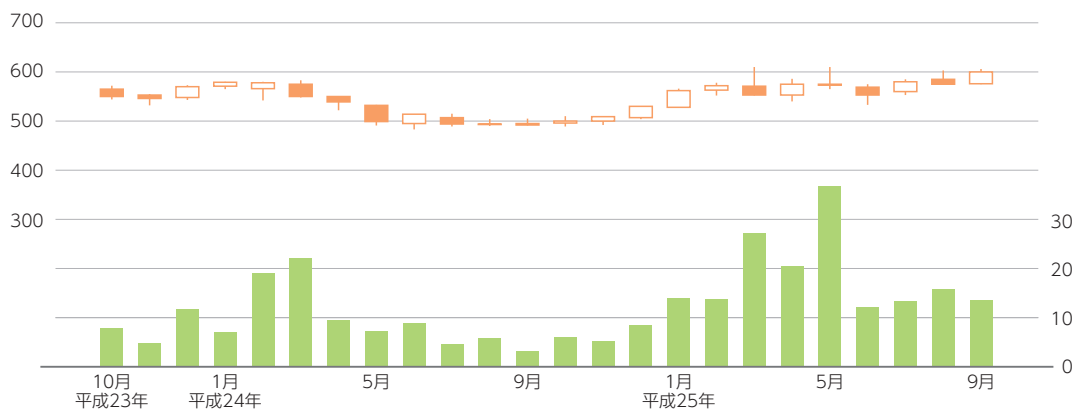


所有数別株式分布



株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
 - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。